

# 2023年度決算(案) 説明資料

「THE MUTUAL」～相互会社としての使命～	P1	2023年度決算の社員配当金案	P12
経営の差別化の歴史	P2	「金利ある世界」への対応	P13
2023年度決算(案)のポイント	P3	「THE MUTUAL」～共感・つながり・支えあいをベースとした相互組織～	P14
保険業績の状況(2社合算)	P4～P6	【ご参考】12年連続増配の内容と個人保険の配当金例	P15
資産運用の状況(富国生命単体)	P7～P9	【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P16
基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況	P10		
健全性の状況	P11		

富国生命保険相互会社

2024年5月23日

おかげさまで100周年



人と人の間に

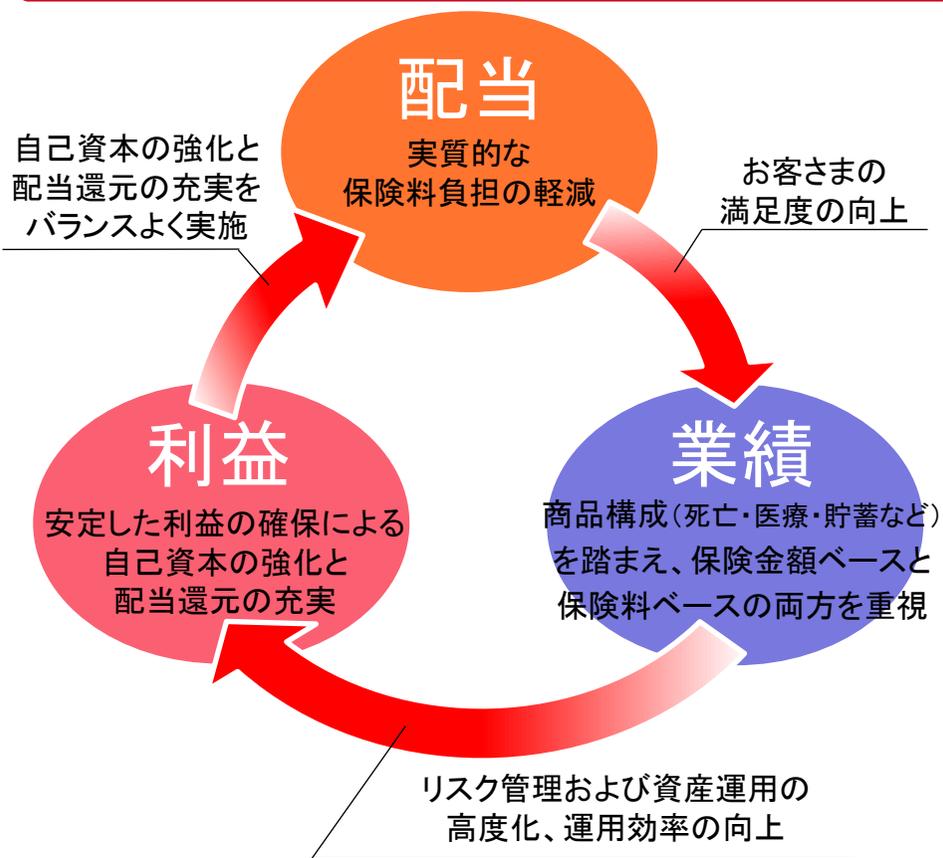
**フコク生命**

THE MUTUAL

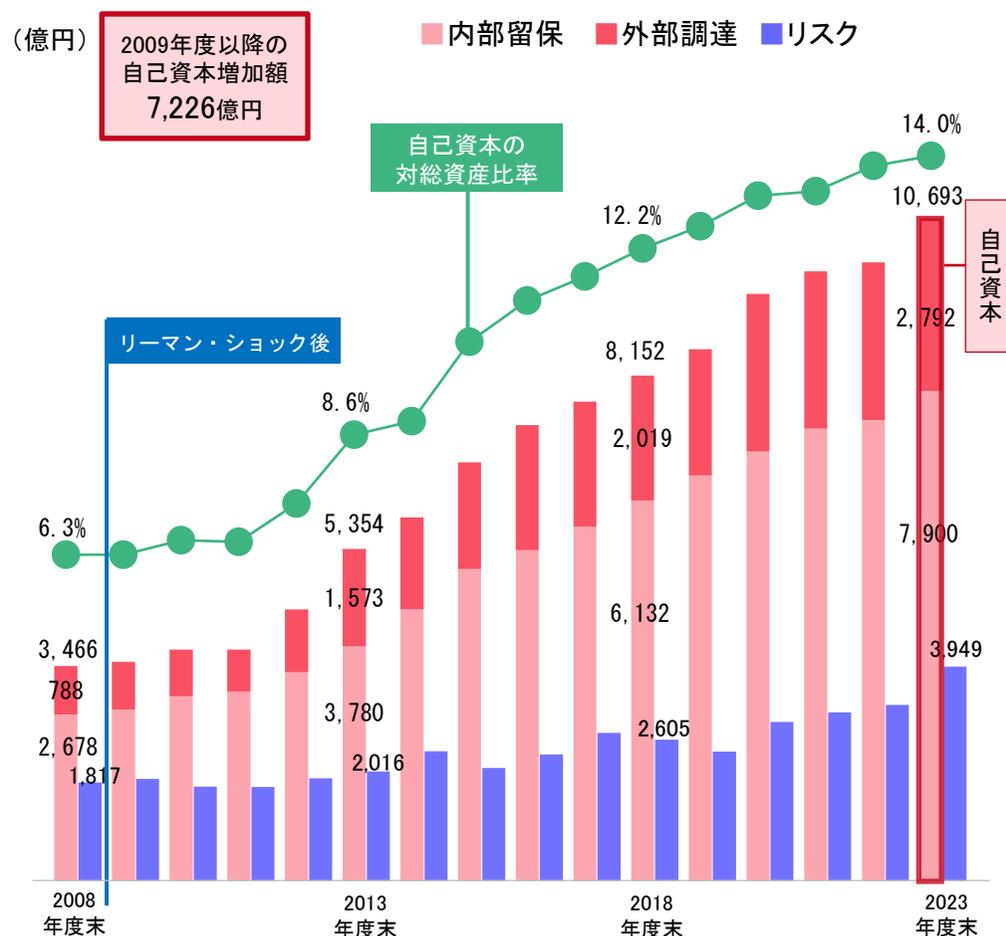
# 「THE MUTUAL」～相互会社としての使命～

- ◆ 安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、これを実践
- ◆ 継続して自己資本の強化を図り、高い健全性に裏付けされた適切なリスク・テイクを実施

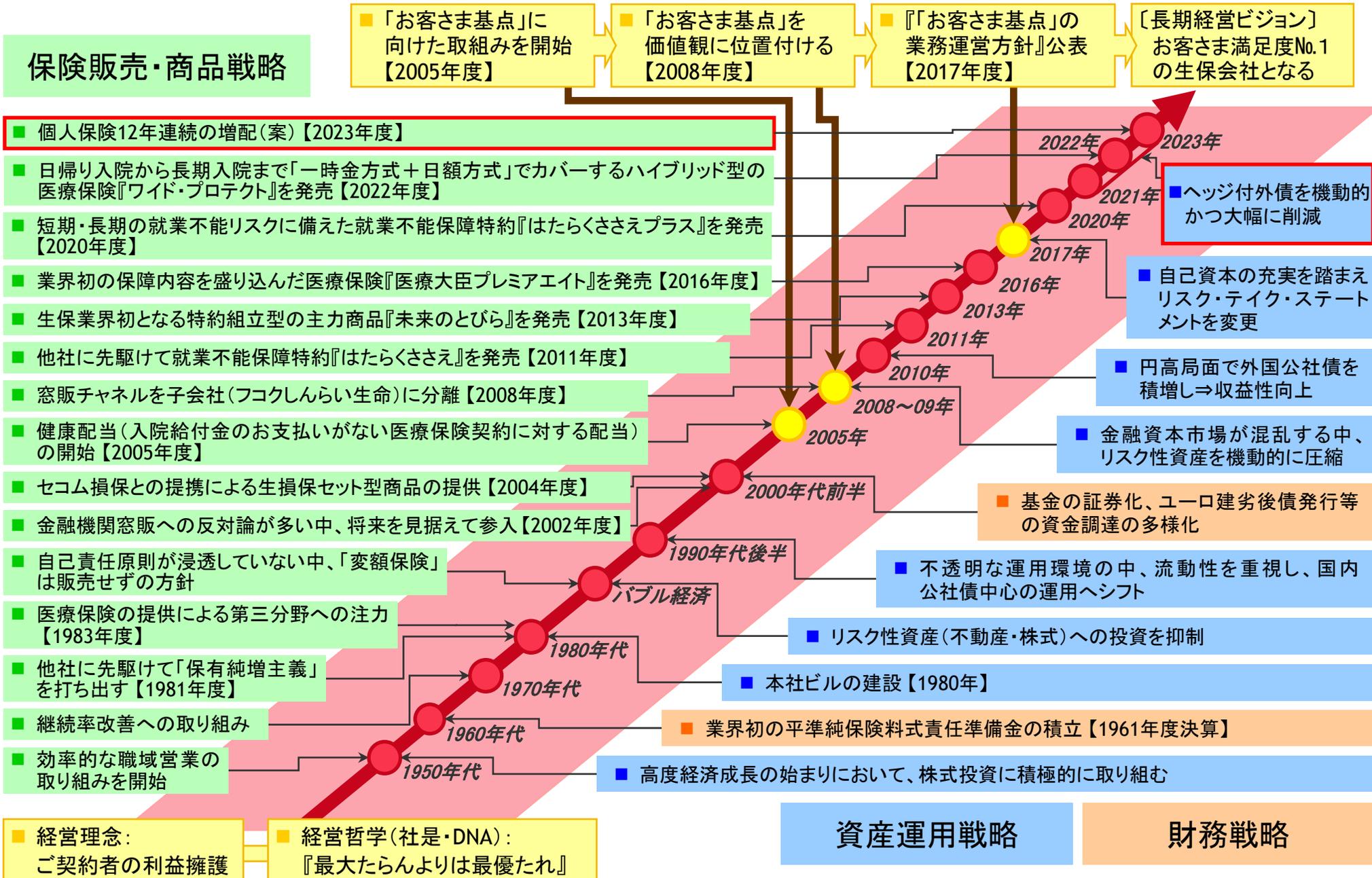
## 相互会社としての使命



## 自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)



# 経営の差別化の歴史



# 2023年度決算(案)のポイント

## 1 新契約年換算保険料は3年連続増加

- ◆ 新契約年換算保険料(富国生命、フコクしんらい生命合算):前年度比6.6%増加の315億円
- ◆ 新契約年換算保険料の増加は、富国生命の学資保険と養老保険やフコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険の販売が好調なことが要因

## 2 基礎利益は過去最高

- ◆ 保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算):前年度比0.3%減少の7,583億円
- ◆ 基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算):前年度比2.0倍の995億円
- ◆ 基礎利益は、単体・連結とも過去最高

## 3 引き続き高い健全性を維持

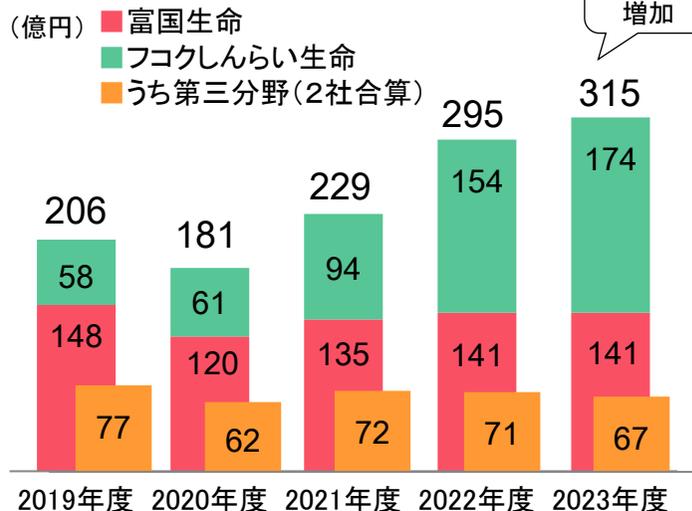
- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率:前年度末比17.8ポイント上昇の1,189.7%
- ◆ 自己資本の充実度に応じたリスク・テイクを行うことでリスクの合計額は増加しているものの、高い健全性を維持

## 4 個人保険は12年連続増配、団体年金は利差配当率を引き上げ

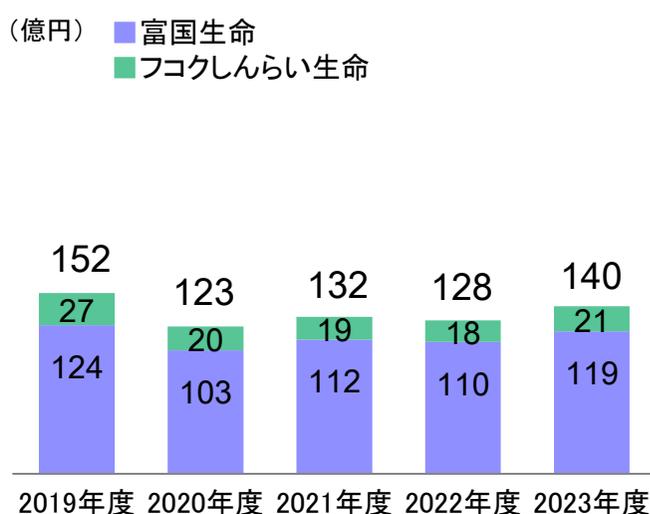
- ◆ 個人保険分野:12年連続増配(利差配当の増配と100周年記念配当)  
配当が割り当てられる契約は、有配当契約の83%に相当する293万件
- ◆ 企業保険分野:確定給付企業年金(DB)の配当込み利回りを、1.6%から1.8%へ引き上げ

# 保険業績の状況(1) 新契約・解約失効(2社合算)

## 新契約年換算保険料

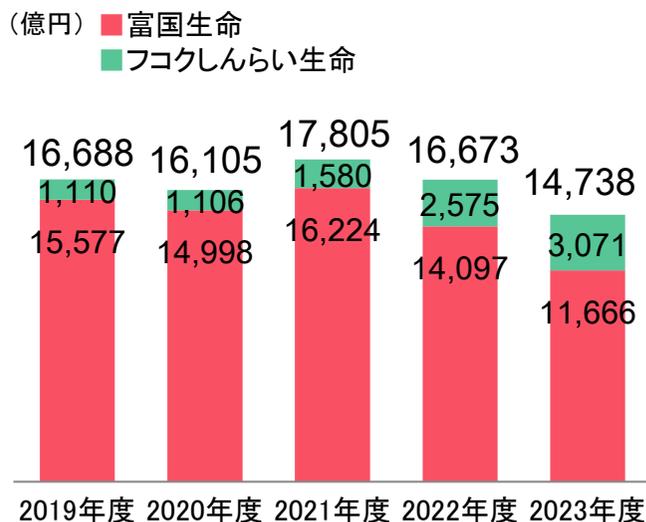


## 解約失効年換算保険料

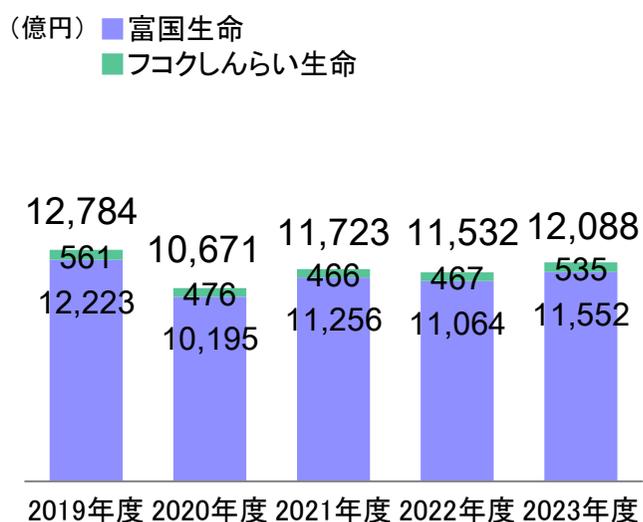


- ◆ 新契約年換算保険料は、前年度比6.6%増加し、3年連続増加
- ◆ フコクしんらい生命の利率更改型一時払終身保険(以下、利更終身保険)の販売増加が主な要因
- ◆ 解約失効年換算保険料は、同9.4%悪化も、コロナ禍前よりも良好な水準を継続

## 新契約高



## 解約失効高

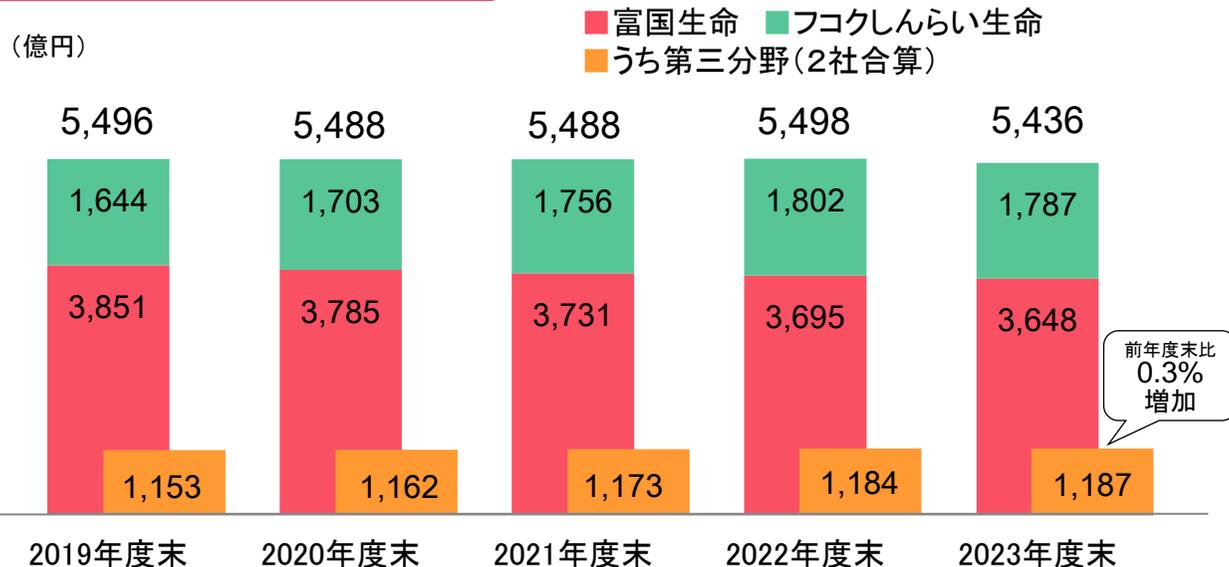


(注)個人保険と個人年金保険の合計

- ◆ 新契約高は、前年度比11.6%減少
- ◆ 富国生命で、主力商品販売内訳において特に中高年齢層の保障額が減少する保険契約見直しが増えたことが主な要因
- ◆ 解約失効高は、同4.8%悪化も、コロナ禍前よりも良好な水準を継続

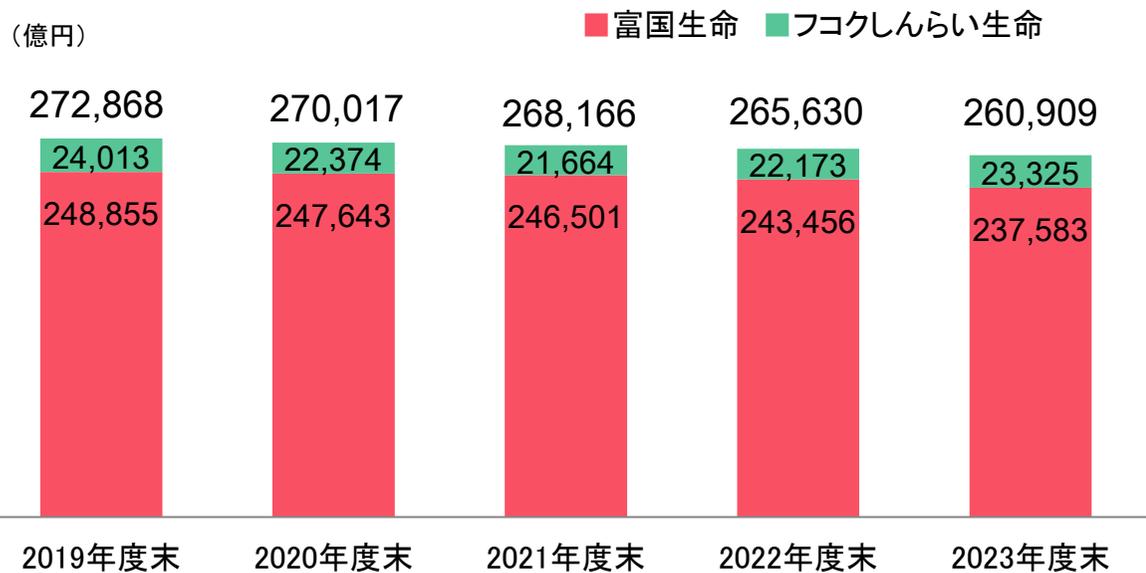
# 保険業績の状況(2) 保有契約 (2社合算)

## 保有契約年換算保険料



- ◆ 保有契約年換算保険料は、前年度末比 1.1%減少
- ◆ 個人年金の支払満了による貯蓄性商品の減少が主な要因
- ◆ 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.3%増加。開示以来20年連続で伸展

## 保有契約高

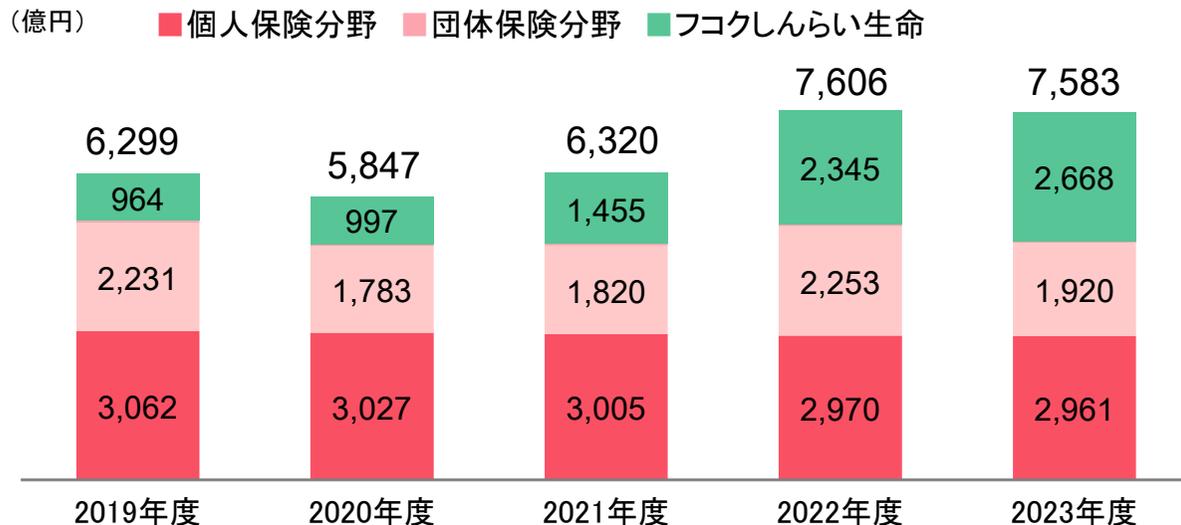


(注)個人保険と個人年金保険の合計

- ◆ 保有契約高は、前年度末比1.8%減少
- ◆ フコクしんらい生命は2年連続増加

# 保険業績の状況(3) 保険料等収入、金融機関窓販の状況

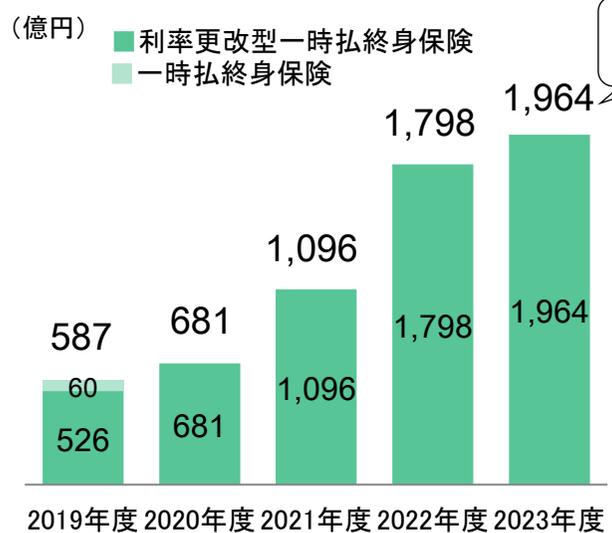
## 保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 保険料等収入は、前年度比0.3%減少
- ◆ フコクしんらい生命の利更終身保険は引き続き好調

## 金融機関による保険販売実績(フコクしんらい生命)

### 【貯蓄性一時払商品の販売実績(収入保険料)】



### 【保障型商品の販売実績(年換算保険料)】



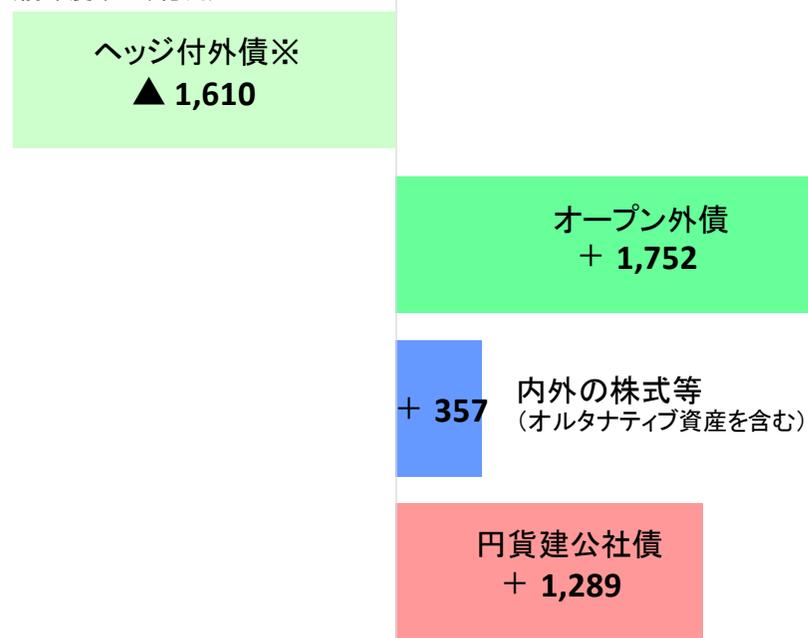
- ◆ 貯蓄性一時払商品の販売実績は、前年度比9.2%増加し、6年連続増加

# 資産運用の状況(1) 資産配分等 (富国生命単体)

- ◆ 強固な自己資本に裏付けされたリスク・テイク戦略を引き続き推進
- ◆ 為替ヘッジコスト率の高止まりにより収益性が大きく低下したヘッジ付外債の削減を引き続き行い、残高をゼロとする一方、海外の長期金利が大幅に上昇したことからオープン外債を積増し。また、プライベート・エクイティ・ファンドなどオルタナティブ資産も、分散投資の観点から積増し
- ◆ 国内の超長期金利の上昇を受け、超長期国債を積増し

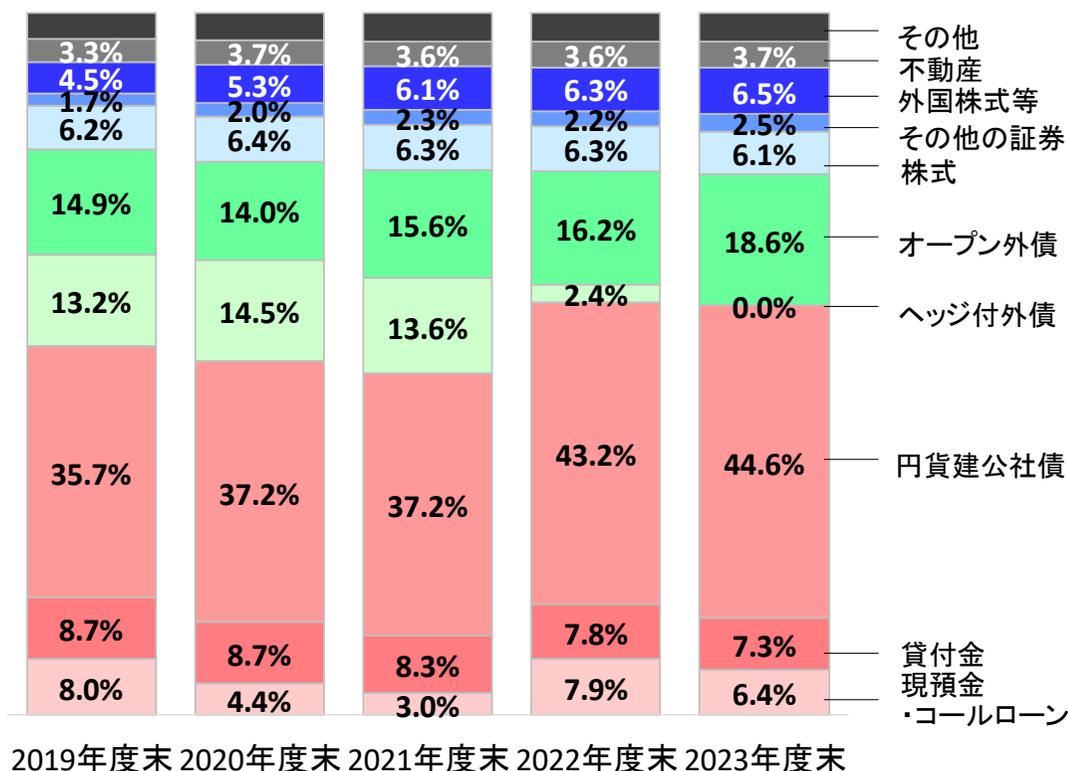
## 主な運用資産の帳簿価額残高の増減額

(前年度末比、億円)



※損益計算書に計上した 評価損益・為替換算損益を控除したものの

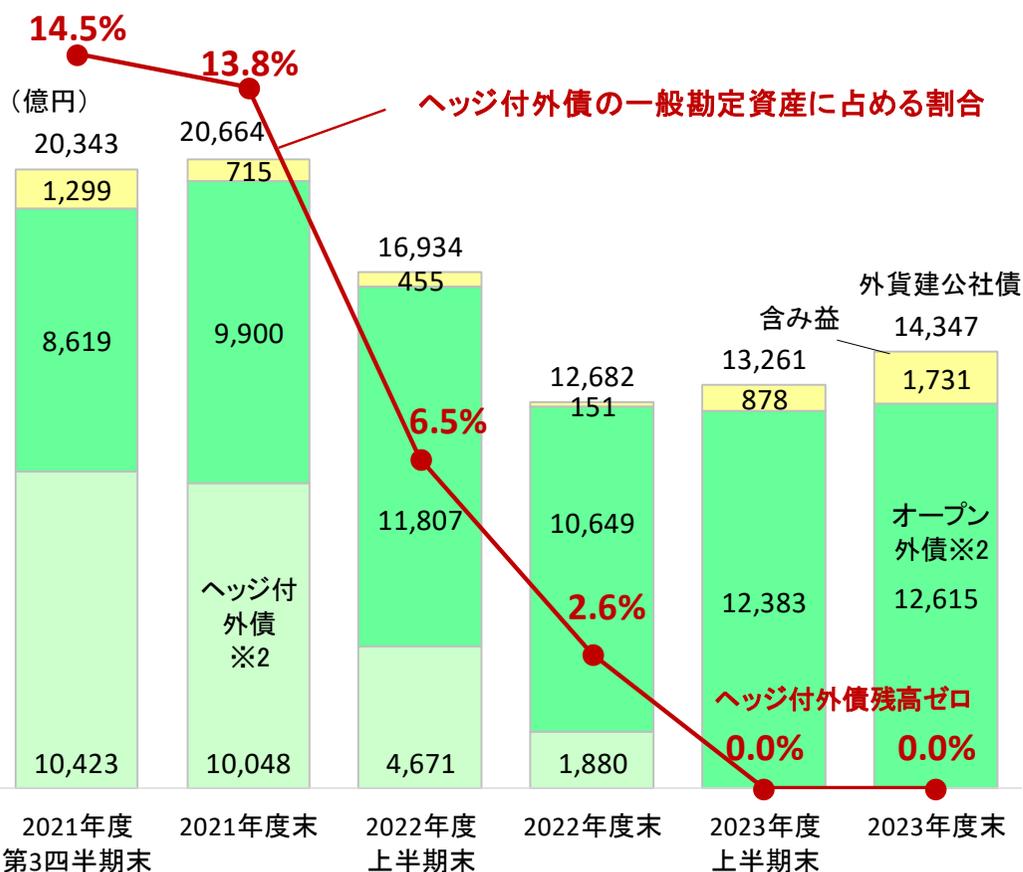
## 一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)



# 資産運用の状況(2) 外貨建公社債投資の状況 (富国生命単体)

- ◆ヘッジ付外債は、為替ヘッジコスト率が上昇し始めた2022年1月に削減を開始し、2023年度上半期末には残高をゼロに。こうした取組みにより、為替ヘッジコストを大幅に削減
- ◆円高局面を捉え、為替のヘッジを外したことや、オープン外債への入替えを行ったことで、外貨建公社債の含み益は、海外金利の上昇による減少分を円安効果が上回り、前年度末から1,579億円の大幅増加

## 外貨建公社債※1ポートフォリオの状況



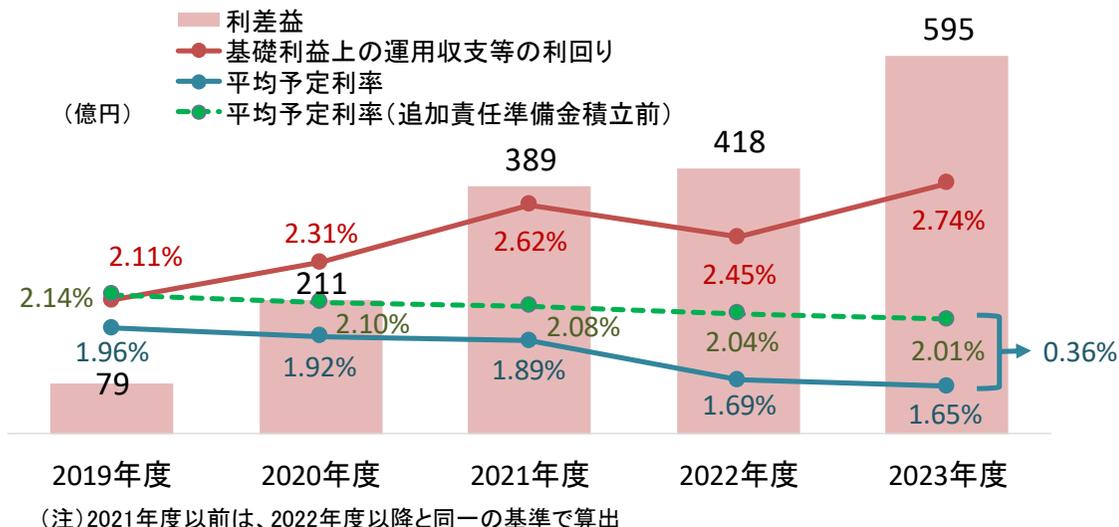
## 外貨建公社債※1に係る損益等の状況

(億円)	2022年度			2023年度		
	上半期	下半期	2022年度	上半期	下半期	2023年度
為替ヘッジコスト	▲ 39	▲ 67	▲ 107	▲ 9	-	▲ 9
為替ヘッジコスト率※3	2.5%	5.0%	3.8%	5.7%	5.8%	5.7%
含み益の増減額	▲ 259	▲ 303	▲ 563	726	853	1,579

※1 外貨建公社債は、その他有価証券の残高および損益等を集計  
 ※2 ヘッジ付外債およびオープン外債の残高は帳簿価額  
 ※3 米ドル3カ月の為替ヘッジコスト率の期中平均値

# 資産運用の状況(3) 利差益、含み損益等 (富国生命単体)

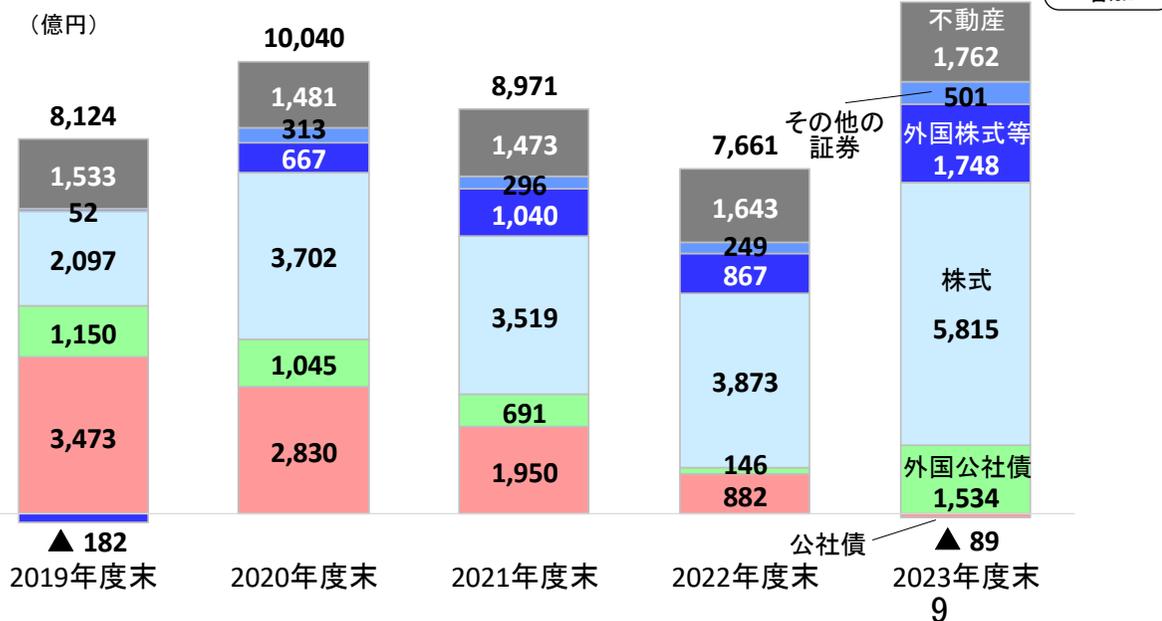
## 利差益の状況



- ◆ 利息及び配当金等収入は、内外株式からの配当金の増加等により、6年連続で過去最高を更新※したことに加え、為替ヘッジコストを、前年度比大幅に圧縮したことから、基礎利益上の運用収支等の利回りは2.74%まで上昇
- ◆ 平均予定利率は、追加責任準備金の積み立て効果もあり、1.65%へ低下
- ◆ この結果、利差益は、前年度比177億円増加の595億円と過去最高

※ 2022年度は比較可能な調整値との前年比較

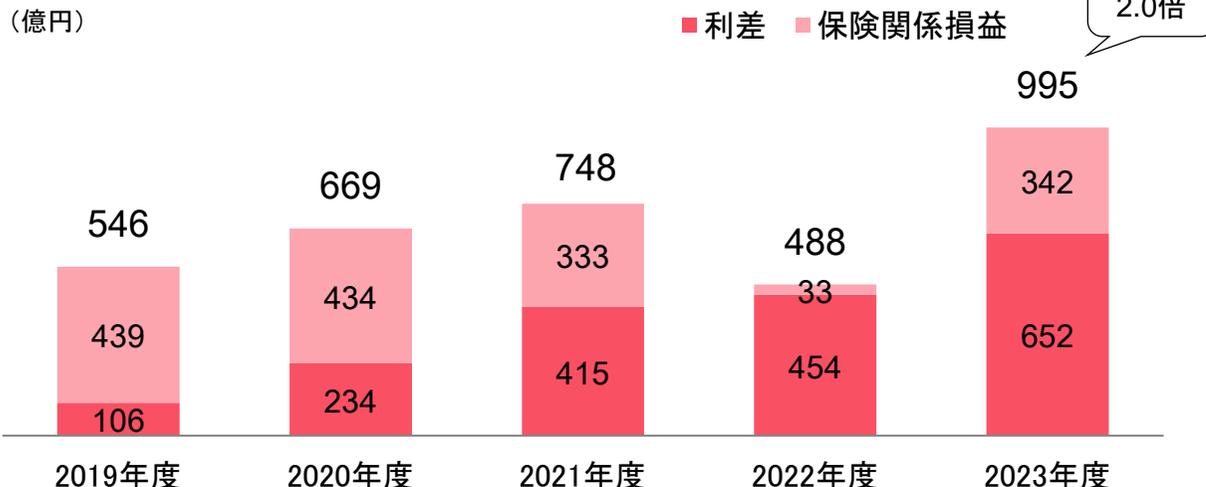
## 有価証券・不動産の含み損益



- ◆ 有価証券・不動産の含み益は、前年度末比47.1%増加の1兆1,272億円
- ◆ 外国公社債の含み益が円安効果により増加、株式や外国株式等の含み益も内外株価の上昇により増加

# 基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況

## 基礎利益(富国生命、フコくしんらい生命合算)



(注)2021年度以前の基礎利益および利差は、2022年度以降と同一の基準で算出

- ◆ 基礎利益は、前年度比2.0倍と大幅増加し過去最高
- ◆ 新型コロナに係る給付金等の大幅な減少により、保険関係損益は342億円に回復
- ◆ 為替ヘッジコストの大幅な削減などにより基礎利益上の運用収支は高水準を維持し、利差益は652億円を確保

## 経常利益・当期純剰余(富国生命単体)

(億円)

	2021年度	2022年度	2023年度
基礎利益	763	472	930
キャピタル損益	34	68	90
臨時損益	△ 410	△ 216	△ 526
うち追加責任準備金と危険準備金への繰入額	384	252	527
追加責任準備金繰入額	1,128	127	117
危険準備金繰入額	△ 744	124	410
経常利益	387	325	493
特別損益	△ 43	△ 3	△ 86
価格変動準備金繰入額	38	5	33
当期純剰余	333	308	397

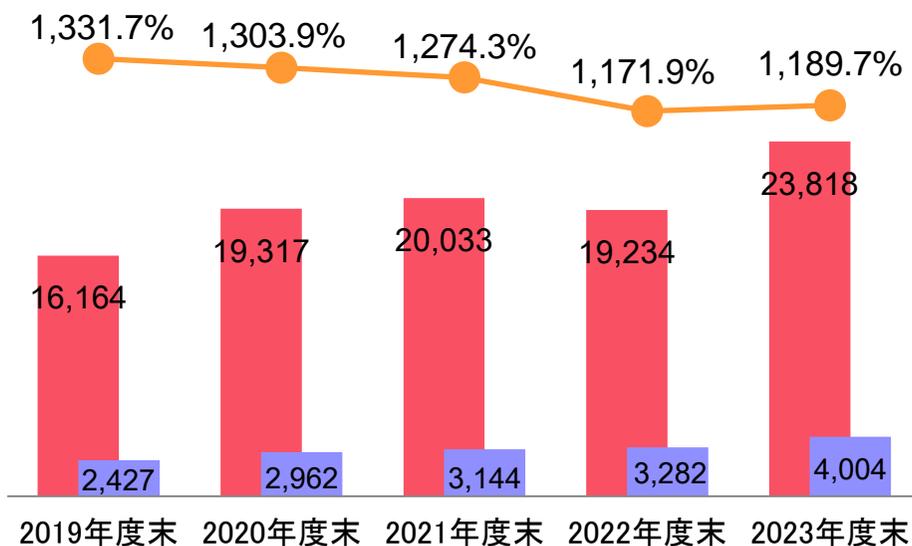
(注)2021年度の基礎利益およびキャピタル損益は、2022年度以降と同一の基準で算出

- ◆ 臨時損益は、前年度の△216億円から△526億円に拡大。これは、余剰財源を全額危険準備金へ超過繰入したことによる
- ◆ 経常利益は、前年度比51.8%増加の493億円
- ◆ 当期純剰余は、同28.9%増加の397億円

# 健全性の状況

## 連結ソルベンシー・マージン比率

(億円) ■ソルベンシー・マージン総額 ■リスクの合計額 ●ソルベンシー・マージン比率



- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比17.8ポイント上昇の1,189.7%
- ◆ 株価上昇や円安等によるその他有価証券評価差額金の増加、内部留保の積み上げおよび劣後債の再調達等が主な要因

- ◆ 2017年度より資産運用において、自己資本の充実度に応じたリスク・テイクを行い、収益の向上を図る戦略を実践
- ◆ 戦略的なリスク・テイクにより、リスクの合計額は増加しているものの、高い健全性を維持

## 【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)(連結)

	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末
ESR	229.5%	237.3%	241.7%	245.2%	258.2%

(注) ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている

- ◆ 経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)(連結)は、前年度末比13.0ポイント上昇の258.2%

# 2023年度決算の社員配当金案

- ◆ お客さまの配当に対するご期待に応えるべく個人保険分野で12年連続増配  
(100周年記念配当・増配額は54億円、対象件数は232万件)
- ◆ 相互会社である当社は、強固な財務基盤を維持するとともに、配当還元の充実を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減をさらに推進

## ■ 個人保険分野：12年連続の増配、有配当契約の83%に相当する293万件に配当

- ✓ 100周年記念配当を実施 (配当額は52億円、対象件数は206万件)  
利益への貢献が大きい保障性商品を中心に、内部留保への貢献度に応じて還元
- ✓ 利差配当を増配 (増配額は1億円、増配件数は38万件)
  - ・2024年4月に個人年金保険の予定利率を引き上げ。公平性を確保するため、2024年3月以前にご加入のお客さまに対し引き上げた予定利率との差分を補う調整配当を実施【15ページの図表1参照】
  - ・金利上昇にキャッチアップした利差配当の増配も実施
- ✓ 基礎利益に対する還元率は39%  
個人保険・個人年金保険の有配当区分を対象として計算した配当還元率(団体保険を含めた場合は53%)

12年連続増配により代表的な契約の10年累計配当金は、1年分の保険料を上回る【15ページの図表2参照】

## ■ 企業保険分野

- ✓ 団体年金保険について一部商品を除いて利差配当率を引上げ (増配額は26億円)  
自己資本の充実度に応じたリスク・テイクにより高水準の資産運用収益を確保しており、業界内で高い予定利率を維持するとともに、業界最高水準の配当込み利回りを安定的に提供

	予定利率 [①]	利差配当率 [②]	配当込み利回り [①+②]
確定給付企業年金保険	1.30 %	0.50 % ( + 0.20 % )	1.80 % ( + 0.20 % )

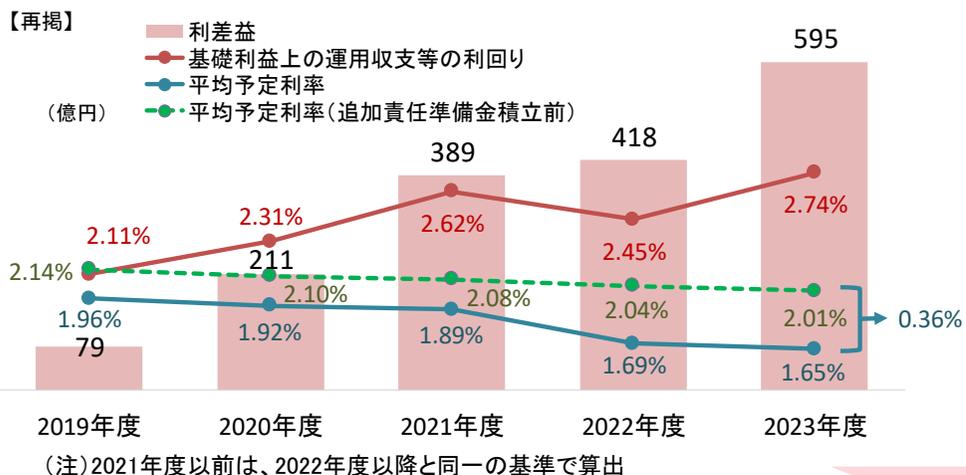
(注) ( )内は増配幅

# 「金利ある世界」への対応

◆ 日本銀行がマイナス金利を解除し「金利ある世界」となり当社を取り巻く環境が変化する中、資産運用で得る収益力を活かし、保険商品・契約者配当で以下の取組みを実施

## 資産運用

### 強固な自己資本を裏付けとしたリスク・テイク戦略の実践



### 強固な自己資本を裏付けとしたリスク・テイク戦略の継続

- ✓ 円貨建公社債は、利回り2%超まで積増しを抑制
- ✓ 外貨建公社債は、為替オープンで積増し
  - ・超長期ソブリン債を中心
  - ・長期保有で償還時に大幅な円高でも収益性は確保
- ✓ エクイティ資産に資金配分
  - ・ポートフォリオのインフレ耐性と収益性を強化

## 保険商品

◆ お客さまの資産形成ニーズに応える魅力ある商品の提供

- ✓ 貯蓄性商品の予定利率を引き上げ
  - ・2023年4月～：学資保険0.9%→1.15%
  - ・2024年4月～：個人年金保険0.65%→最大1.35%

## 契約者配当

◆ 実質的な保険料軽減となる契約者配当で、お客さまへの期待に応える

- ✓ 個人保険分野で12年連続増配
- ✓ 学資保険、個人年金の予定利率引き上げ前にご加入のお客さまに対し調整配当
- ✓ 金利上昇を踏まえた利差配当の増配

# 「THE MUTUAL」～共感・つながり・支えあいをベースとした相互組織～

- ◆ 100周年を迎えた当社の進むべき道を示した「THE MUTUAL宣言」を2023年11月22日に発表
- ◆ 相互会社形態を創業以来貫く日本で唯一の生命保険会社として、次代の相互扶助である「THE MUTUAL」を掲げ共感・つながり・支えあいをベースとした相互組織を進化させていく

## THE MUTUAL宣言(抜粋)

当社は創業以来、相互会社形態を堅持する日本で唯一の生命保険会社です。それは、ご契約者が保険団体を構成しお互いに助け合う相互扶助が保険の精神であり、相互会社はこの相互扶助の精神から生まれたご契約者を中心とする組織だからです。

当社は、次代の相互扶助である「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)を掲げ、共感・つながり・支えあいをベースとした相互組織を目指すことを宣言します。

生命保険はお客さまとの一生涯にわたる、さらには世代を超える約束であり、終わりのない仕事です。相互扶助の精神のもと、お客さまにしっかりと寄り添い、未来永劫お客さまとの約束を守り続けます。

富国生命は、これからも「人と人の間に」存在し続けます。

2023年11月22日 富国生命保険相互会社

## 具体的な取組み

### フコク生命 THE MUTUAL基金



- ◆ 困難に直面する子どもたちやその家族を支えようと活動しているNPO法人を応援
- ◆ 趣旨にご賛同いただいた皆さまからの「共感による寄付」を受け入れる「共感型の基金」

### THE MUTUAL Art for children おやさいクレヨン



- ◆ 2021年5月に取組みを開始し10万個以上を地域の保育園・幼稚園に寄贈
- ◆ クレヨンは、収穫の際に捨てられてしまう野菜の外葉などが原材料。SDGsの取組みの1つ（食材ロスの削減）

# 【ご参考】12年連続増配の内容と個人保険の配当金例

【図表1】 12年連続増配の内容

2012	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 健康配当の増配 入院給付金のお支払いがない医療保険が対象。(2005年度より実施)</li> <li>✓ 死差配当の増配、利差配当の増配</li> </ul>
2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 死亡保険の増配、利差配当の増配</li> </ul>
2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 死亡保険の増配、医療保険の増配</li> <li>✓ 死亡保険の長期継続特別配当を13年ぶりに復活。経過10年以上の満期契約を対象</li> </ul>
2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 健康配当の増配</li> </ul>
2016	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 死亡保険の増配、健康配当の増配</li> </ul>
2017	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2018年4月の料率改定をふまえ公平性確保の観点から改定前の死亡保険に対して予定死亡率の差相当を配当還元</li> </ul>
2018	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 健康配当の増配</li> </ul>
2019	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 健康配当の増配</li> <li>✓ 医療保険の長期継続特別配当を新設 経過10年以上の満期契約を対象</li> </ul>
2020	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 死亡保険の増配、医療保険の増配</li> </ul>
2021	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 死亡保険の増配、健康配当の増配</li> <li>✓ 就業不能の配当を新設</li> </ul>
2022	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学資保険の料率改定をふまえ改定前の学資保険に対して予定利率の差相当を配当還元</li> </ul>
2023	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 100周年記念配当</li> <li>✓ 個人年金の料率改定をふまえ改定前の個人年金に対して予定利率の差相当を配当還元</li> <li>✓ その他の貯蓄性商品も含め、金利上昇にキャッチアップした利差配当の増配</li> </ul>

【図表2】 個人保険の配当金例

## 医療パック未来のとびら（5年ごと配当契約）

死亡保険金 2,000万円、介護保険金 300万円、就業不能年金 140万円、入院日額 6,000円  
2014年度加入（経過10年）、男性、月払、10年更新型、満期まで入院給付金の支払いがない場合の例示

12年連続増配により上記の代表的な契約の10年累計配当金（152,332円）は、1年分の保険料（149,928円）を上回る

	各年度の配当金	12年連続増配との対応
2014	0円	
2015	0円	
2016	0円	
2017	8,800円	2017年度の増配内容が反映されている
2018	27,374円	2014年度～2018年度の増配内容が反映されている
2019	11,600円	2017年度の増配内容が反映されている
2020	12,600円	
2021	13,800円	
2022	15,000円	
2023	63,101円	2014年度～2021年度、2023年度の増配内容が反映されている
<b>累計額</b>	<b>152,332円</b>	（左記累計額には、配当金の積立利息 57円を含む）

…赤枠囲みは、調整配当

# 【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		2023年度	
					増減率/pt		増減率/pt
新契約高 <sup>(※1)</sup>	16,688	16,105	17,805	16,673	▲ 6.4%	14,738	▲ 11.6%
富国生命	15,577	14,998	16,224	14,097	▲ 13.1%	11,666	▲ 17.2%
フコクしんらい生命	1,110	1,106	1,580	2,575	63.0%	3,071	19.3%
保有契約高 <sup>(※1)</sup>	272,868	270,017	268,166	265,630	▲ 0.9%	260,909	▲ 1.8%
富国生命	248,855	247,643	246,501	243,456	▲ 1.2%	237,583	▲ 2.4%
フコクしんらい生命	24,013	22,374	21,664	22,173	2.3%	23,325	5.2%
新契約年換算保険料 <sup>(※1)</sup>	206	181	229	295	28.6%	315	6.6%
富国生命	148	120	135	141	4.9%	141	▲ 0.4%
フコクしんらい生命	58	61	94	154	62.3%	174	13.0%
保有契約年換算保険料 <sup>(※1)</sup>	5,496	5,488	5,488	5,498	0.2%	5,436	▲ 1.1%
富国生命	3,851	3,785	3,731	3,695	▲ 1.0%	3,648	▲ 1.3%
フコクしんらい生命	1,644	1,703	1,756	1,802	2.6%	1,787	▲ 0.8%
保険料等収入	6,299	5,847	6,320	7,606	20.3%	7,583	▲ 0.3%
富国生命	5,335	4,850	4,864	5,260	8.1%	4,914	▲ 6.6%
フコクしんらい生命	964	997	1,455	2,345	61.1%	2,668	13.8%
基礎利益 <sup>(※2)</sup>	546	669	748	488	▲ 34.8%	995	2.0倍
富国生命	554	684	763	472	▲ 38.1%	930	96.7%
保険関係損益	475	472	374	54	▲ 85.5%	334	6.2倍
利差 <sup>(※2)</sup>	79	211	389	418	7.4%	595	42.4%
フコクしんらい生命	▲ 8	▲ 14	▲ 14	15	—	65	4.3倍
連結ソルベンシー・マージン比率	1,331.7%	1,303.9%	1,274.3%	1,171.9%	▲ 102.4pt	1,189.7%	17.8pt
富国生命	1,290.8%	1,261.6%	1,234.2%	1,133.8%	▲ 100.4pt	1,147.0%	13.2pt
フコクしんらい生命	968.1%	1,084.9%	1,117.1%	1,068.9%	▲ 48.2pt	997.0%	▲ 71.9pt

※1 個人保険と個人年金保険の合計

※2 2021年度以前は、2022年度以降と同一の基準で算出